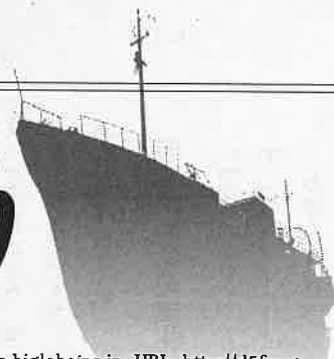


都立 第五福竜丸展示館ニュース

2004.05.01  
No.308

# 福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

写真左・島民の命は指の先くらいだと言われたという。ジョン・アンジャイン元村長。写真右・離島のとき、「子らの未来のために」と無言でプラカードを示す女性



被災50周年記念特別展 五月一五日～六月二七日

## 島田興生写真展「曝された楽園、いのち、子ども未来」

—ロンゲラップ一九七四～二〇〇四—

フォト・ジャーナリスト島田興生さんは、一九七四年にマーシャル諸島、ビキニとロンゲラップを初めて取材し、以来、島の人びとの被害と苦しみ、苦悩を写真とルポルタージュで伝え、アメリカの核実験を告発しつづけてきました。

ロンゲラップの人びとは、死の灰を浴びて避難させられた後、一九五七年に帰島しましたが、残留放射能の被害に危惧を抱いて一九八五年に自分たちで決断して「離島」しました。島田さんは、一九八五年から九一年までマーシャル諸島のマジュロに移住し、人びとと一緒に暮らしました。

\*

帰国後の一九九四年、ロンゲラップの人びとに希望と自立への足がかりをつくるため

に船を贈るブンブンプロジェクトを立ち上げ一九九七年に漁船を贈りました。

今回の写真展は、島田さんが接した三〇年間の、亡くなった被曝者や今も訴えつづける被曝者の姿、そのまなざしに迫ります。

ぜひ、お誘い合わせのうえご来館、ご鑑賞ください。

### 島田興生写真展

オープニング・セレモニー

5月15日(土) 午後3時より4時

島田さんのトーク「私とマーシャル」。  
お話の後、懇親会。ぜひご参加ください。

50周年記念事業へのご寄付、

ありがとうございます。

財団法人第五福竜丸平和協会

# 「明日の神話」と第五福竜丸

岡本敏子さん語る

特別展示「岡本太郎『明日の神話』と第五福竜丸展」開催に当り、四月三日オープニングセレモニーを行い、岡本太郎記念館長の岡本敏子さんにお話しいただきました。

\*

よくいらっしやいました。桜も満開で…でも第五福竜丸のことを思うとあまりニコニコできない気がします。五〇年経ったんですよ、あれから。なんにも知らないで、太平洋の真ん中でマグロを獲っていた漁師さんたちが、いきなり降ってきた「死の灰」をあげて、岡本太郎もほんとに怒り狂ってましたよ。翌年（一九五五）に原爆をテーマにした『燃える人』を描いたの。

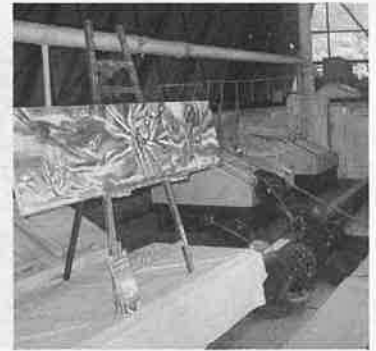
## 明日の神話の誕生

『明日の神話』も原爆をテーマにした。これは一九六七年、万博のプロデューサーを



引き受けた直後に、メキシコの超高層ホテルのオーナー、ソアレスさんが、岡本太郎にほれ込んで「描いてもらいたい」と青山のアトリエまで談じ込みに来た。

岡本太郎はメキシコが好きなんです。メキシコって死と生が抱き合ってるような文化なのね。「死の祭」というのがある。道の両側に露天が出て、ガイコツを型どったパンやお菓子が売られ、小さな子がそれを食べている。私と二人で現場を見に行き、帰った翌日に描いたのよ、それがこ



の原画です。

真ん中にガイコツが燃え上がってるでしょ。原爆のキノコ雲がニヨキニヨキ。右の下の方に船が描いてあるでしょ。あれが第五福竜丸でマグロを引っ張ってるの。

原爆の絵なんですけど、決して悲惨さや残酷さを描いていない。原爆は本当に凶悪な力ですよ。でもね、それに負けてしまったら人類なんてもういないし、これからもダメでしょ。原爆の炸裂はすごいけれども、岡本太郎のガイコツはばらばらになりながら美しく燃え上がってる。原爆は凶悪なエネルギーだけれど、人間はもつと大きな力で原爆に立ち向かうんだよ。その瞬間に明日の神話が生まれるんだ、ということなのね。

## 壁画三五年ぶり発見

ホテルはオーナーが工事の途中で死んでしまっただけで絵は行方不明になってしまった。この壁画を三五年探していたんです。

いま、北朝鮮の核問題やイラクでは劣化ウラン弾のことがあある。なにかおかし。こういう危険な状態になつているときに三五年ぶりにメキシコで見つかった。

この原画ですべてわかったように思うかもしれないけど、全然ちがう。三三メートルの壁画を見るとすごい迫力です。そのすごさには震え上がりますよ。岡本太郎の最高傑作よ。絵でなければ伝えられないメッセージがある。だから『明日の神話』というタイトルのこれからの時代にむけて、いまから力を発揮するの。

なんとか日本に持ってきて、修復して展示したいの。日本は被爆国じゃない、だから日本に置いてね、全世界に発信したいのよ。原爆なんかに負けないぞ。いまでも実験

やったり、方々で戦争があつたり、おかしいでしょ。そういう状況におつてやらないと…ですから日本に持つてくるのに関心をもつてくださいな。応援団になつてくださいな。

## 福竜丸のこと伝えましょう

第五福竜丸が五〇年だということはずごく大事なことよ。今の若い人たちはほとんど知らないでしょ。日本はキチンと歴史教育しないから、知らないんですよ。実物があるからそこへ行ってみて御覧なさい、すごいから、と言えらるのよ。お話だけじゃなくてこの甲板の上にこの絵が飾られるというのはいいわよ。

第五福竜丸のことをどんなん語つて伝えていかなければね。

四月四日には川崎市岡本太郎美術館学芸員、大杉浩司さんによるギャラリートークが行われました。岡本太郎の宇宙観や作品への思い、大阪万博と「太陽の塔」についての解説があり、ビデオで作品鑑賞をしました。

## ある誠実な漁師の年譜

—大石又七さんの著書『ビキニ事件の真実—  
いのちの岐路で』に寄せて

山本義彦

本書は大石さんがビキニ事件に遭遇して半世紀の経験の中で、感じられたことを仔細に述べることを通じて、ほんとうのビキニ事件の実相を描いて余すところがない。まさに死と隣り合わせのご体験の痛いほどの思いを読み手にも感じさせる。

第一に、大石さんにとって  
は中学二年生で父親を失い、  
長男として働きに出る中での  
体験がこのビキニ事件だった。

第二に、ビキニ事件の後、  
日米両政府がいかに事件の隠  
蔽工作を図り、あまつさえ第  
五福竜丸がスパイの容疑もあ  
るといったことが国会の場  
で、外務大臣によって開陳さ  
れるといった状況であった。  
もちろんこのスパイ容疑なる  
ものがアメリカ当局からの入  
れ知恵であったことは言うま  
でもない。

第三に被爆の実相をアメリ

カ当局の資料として独占的に  
収集すべく、日本側の善意の  
医師たちに情報の隠蔽工作が  
たび重ねて行われていたと言  
う事実。これらの諸事実を大  
石さんは封印されていた外交  
資料を読み解く中から丹念に  
分析し説明している。

\*

善意と言えば、大石さんを  
ここまで鋭い歴史の生き証  
人に育て上げるに貢献した力  
は、中学生への証言活動の中  
での、証言とは自己を変革す  
ることに通じると実感する経  
験や、テレビ・ディレクター  
の真剣な対応が大石さんの心  
を開き、積極化させていった  
ことも大切であろう。それに  
日本政府の核問題への及び  
腰、つまりアメリカに気兼ね  
し、アメリカの核の傘なるも  
のをあてにする態度や、若か  
りし頃には率直に被害者の立  
場に立っていたはずの小田滋  
国際裁判司法裁判所裁判官の

変節への憤りも、大いに大石  
さんを変えるのに「貢献」し  
てきたと言うから、歴史の皮  
肉と言うほかないであろう。  
私は、こうした検討を続け

てきた大石さんに激しく感動  
させられた。さらに大石さん  
の鋭い分析眼は、人に対して  
も向けられていて、ビキニ事  
件被災者の調査を端緒として  
設立された国の放射線医学総  
合研究所の医師にあっても、  
実にその人物がビキニ被災者  
の診断調査に当たっていた当  
時は、被災者の立場に即して  
の判断をしていたのに、研究  
所長のような地位に上り詰め  
ると、全く正反対の認識を示  
し、言を翻してあたかも「被  
災者に落ち度あり」とさえ表  
明してしまうという怖さを告  
発している。

\*

多くの被災者がそうである  
ように、大石さんもひっそり  
と都会の片隅で生きようとし  
た時代を潜り抜けて、中学生  
に体験を語る機会やその後の  
継続する交流、第五福竜丸展  
示館での体験に基づく証言者  
となることを通して、もう忘

れ去りたいと念じてきた日々  
を脱皮し、全国的にこの体験  
を大いに知ってもらおうこと  
そが、同じく乗組員だった人  
たちの犠牲に報いる現存者の  
使命と心得ているという。

また被災当時から不十分  
ではあるが米国側からの補償  
が行われていく段になると、  
なんと地域の人々の白い目を  
感じなければならず、ついに  
大石さんはその目を逃れるべ  
く東京に出てきたということ  
も率直に語られているが、そ  
の日々も常に「死の灰」によ  
る病気の悪化や再発へのおび  
えの中で生きてきたこともよ  
く分かる。

生まれくるご自身の赤ちゃ  
んが何と死産であったと言っ  
痛切な体験、そしてその後の  
お二人のお子さんは健康で、  
今やお孫さんにも恵まれたと  
言う経緯を語るとき、自らの  
良き伴侶が抱いた心の葛藤に  
も痛いほどの思いを述べられ  
ている。

\*

大石さんの活動は一層の広  
がりを見せ、ついにビキニ環  
礁で今もなお水爆実験の被災

により苦しむ人々の所にまで  
出かけ、交流する。原水爆が  
あのヒロシマ・ナガサキから  
六〇年になろうとする今も、  
その被災者の生涯にわたる苦  
難はもとより、ビキニ事件に  
なお苦しんでいた多くの犠  
牲者、そして生存者の苦悩と  
ともに、はるか南の島々でふ  
るさとを捨てさせられて、依  
然として帰れない被災者も多  
く生存している。ただ日本政  
府のように、解決済みを決め  
込んで、出来ることならば被  
災者の訴えを聞きたくない  
という立場とは異なり、アメリ  
カ本土での水爆実験区域の被  
災者同様の補償を受けている  
ところもある。

大石さんは同じ被害者の小  
塚博さんを励まして、ご自分  
のつらい体験を証言しつつ、  
船員保険の再適用に努力し、  
これを勝ち取った。その際、  
小塚さんがもう自分のことは  
いい、と投げやりにさせられ  
るような県知事の仕打ちに適  
用不許可の判断に対して、死  
んでいった仲間たちの無念の  
思いを晴らすためにこそ、再

(4めんど下につづく)



### 「お花見平和のつどい」 に160人

快晴にめぐまれ絶好の桜日和となった4月3日、4回目をむかえた「お花見平和のつどい2004」が開かれました（第五福竜丸から平和を発信する連絡会主催）。

福竜丸のエンジン展示施設と八重紅大島桜の間につどった参加者を前に東京地婦連の田中里子さんが開会の挨拶、連絡会に参加する東京生協連、主婦連、都地消連、東友会、東京原水協、平和協会などから「被災50年を迎えた第五福竜丸と私たちの平和運動」についての報告がありました。

昼休みに入り、青年のミュージシャンが演奏、午後の部は、「第五福竜丸と私」と題して発言コーナーで展示館に近い辰巳小学校6年生の作文朗読や参加者の発言がつつぎました。

展示館の中では、「なぜ今被爆者が集団訴訟を」のコーナーがおこなわ

れ、東原爆裁判の勝利から集団訴訟へをテーマに弁護士の高見沢昭治さんが報告、参加者からの発言をうけました。

つどいは最後に、折鶴コーナーなどで寄せられた平和メッセージが紹介され、「青い空は」の全員合唱で終了しました

### 展示館の近況報告

岡本太郎「明日の神話」特別展示会期中は5034人の来館者がありました。オーストラリアの平和巡礼団をはじめ、東北や静岡、京都、高知からも来館しました。11日には焼津市で行われた「焼津みなとマラソン」にボランティアの会メンバーが参加し、全員が完走。完走賞で地元産カツオ節を貰いました。またイタリアから平和博物館の研究者、オーストラリア・メルボルン大学院生2名、香港のジャーナリストなども来館しました。

### 報道などから

●3月31日NHK静岡放送局「たっぶり静岡」で川崎会長のインタビューが放送されました。

●防災情報新聞3月17号「ミュージアム紹介」欄で展示館概要と50周年の記念事業が特集されました。

●全日本海員組合機関紙「海員」4月号は「第五福竜丸被災から50年」と題した特集を組み、展示館の紹介をはじめ「3・1ビキニデーのつどい」での新藤兼人監督のお話なども収録しました。「船員しんぶん」にみるビキニ事件と海員労働運動の歴史など貴重な資料も掲載されています。

●UNIV.COOP（全国大学生協連会発行）4月号「なるほど・ざWORD」に山村茂雄理事が「ビキニ水爆実験50年 第五福竜丸は航海中です」を寄稿しました。

●アピレ21（さいたまコープ広報166号）では展示館見学の取り組みと安田事務局長のインタビューが掲載されました。

### 「図録」が日本図書館協会選定図書に！

ビキニ水爆被災50周年記念出版として刊行された図録「写真でたどる第五福竜丸」がこのほど日本図書館協会の選定図書に選ばれました。福竜丸のこゝと被災事件のこゝとを広く伝え知らせるためにいっそう普及へのご協力をお願いします。

（3めんからつづく）  
適用を勝ち取るうと説得している。

このように大石さんの筆致は見事に自己の体験に基づいて歴史の真実に迫りたいという真つ当な精神を育て、それに支えられてのことであることが分かる。大石さんは「学歴もない一介の漁師」と謙遜される一方、いかなる「学識」があろうとも、人生の真実に率直に学び、その変革を実現できるかどうかこそが、その人の姿を決めると言うことを問わずとも知らせてくれる。

本書末尾に収録されている「第五福竜丸・ビキニ事件の記録および関連年表」はこの半世紀にも及ぶビキニ問題の経過を確認する上で貴重な参考資料であり、「ビキニ事件の講話」一覧は大石さん自らの行動の軌跡として、また大石さんの本書の記述を辿る上で不可欠の資料となっている。

（静岡大学人文学部教授／寄稿）

\*

大石又七『ビキニ事件の真実―いのちの岐路で』みすず書房、二〇〇三年、二六〇〇円